

公の施設目標管理シート（直営）

年度	令和元年度		
施設名	新潟市北区郷土博物館（分館 横井の丘ふるさと資料館を含む）	所管部・課	北区地域総務課
施設の設置目的	市民の教育、芸術及び文化の向上を図るため、博物館法第2条第1項に規定する博物館として、新潟市北区郷土博物館を新潟市北区嘉山3452番地に設置する。 また、分館として、新潟市北区横井257番地1に横井の丘ふるさと資料館を置く。		

問合せ先	025-386-1081
------	--------------

当初予算(千円)		当初人員(人)		作成日	R1.6.20
歳入	270	正職員	3	修正日	
歳出	12,774	非常勤	2	評価日	R2.7.10

No.	視点	目標	評価指標					参考・補足	主な事業等	目標達成状況 未達成理由	評価	
			項目	H28実績	H29実績	H30実績	R1目標					R1結果
1	市民	入館者の増加	企画展等を実施して入館者数年間8,200人以上 (単位:人)	9081	10,019 (入館者:8,610人、 館外事業参加者:1,409人)	9,141 (入館者:8,265人、 館外事業参加者:876人)	8,200 (入館者:8,000人、 館外事業参加者:200人)	9,068 (入館者:8,895人、 館外事業参加者:173人)	・常設展拡大企画展の開催 ・ふるさと学習の利用拡大 ・美術企画展の開催 ・恒例の共催展「愛湖会展」の開催がなくなり、約300人の減少が予想されますが、増やすことをめざし、8,000人とします。	・常設展「阿賀北の大地と人々のくらし」をテーマに教室等を開催 ・常設展拡大企画「昭和のくらし4」等の開催 ・ふるさと学習の利用拡大 ・(小中学生公募)「松蔭書道展」、「北区子ども科学展」など ・美術企画展「人間はどこにいる?」「アートと道具のはざま展」 ・郷土芸能伝承支援事業	企画展は、昨年度からの継続で「昭和のくらし展3」を開催し、その後に、恒例の小中学生の書道と科学の2つのコンクール、そして美術企画展「人間はどこにいる?」「アートと道具のはざま展」、さらにはふるさと学習に対応したシリーズ展「昭和のくらし展4」の3つを開催しました。 「博物館まつり」においては、郷土芸能発表会を2日間行ったことや、新しい試みとして高校書道部によるパフォーマンスを催行したことなどにより、昨年度よりも2.5倍の1,020人の来館者がありました。 また、福祉施設への広報により春期に施設利用者から多く来館いただいたこと、学校のふるさと学習等での利用が増えたこと等の理由から、目標の「入館者数及び館外事業参加者数」を達成することができました。	A:達成(優)
2	財務	歳入の増加	刊行物の販売収入年間140,000円以上 (単位:円)	367,900	139,400	161,700	140,000	141,300	・「常設展示案内」の活用と販売 (今年度は、展覧会図録など、新規の有償刊行物の作成が予定されていないことから、通常の実績を目指します)	・常設展示「学習ノート」の販売 ・常設展示ガイドブックの販売 ・ガイドブック「北区のお宝ものがたり」 ・そのほか企画展図録などの販売	今年度は、展覧会図録など、新規の有償刊行物はありませんが、「学習ノート」の改訂版を発行しました。博物館活動のベースとなる「ガイドブック北区のお宝ものがたり」「学習ノート」「常設展示案内」を中心に実績を伸ばし、目標を達成しました。	B:達成
3	業務	市民との協働(講座回数)	ボランティアガイド養成講座開催を年間4回以上 (単位:回)	講座 4回 その他研修等 3回	3	4	4	4	・スキルアップ講座及び他館ボランティアとの交流会の開催 4回 ・市民ガイドによる常設展示等の解説により、「北区の歴史と文化」をわかりやすく案内できる博物館づくりを促進します。	・市民ガイドのスキルアップ及び活動の拡充	館外での研修2回、当館企画展研修と意見交換会1回。 さらには、小学校のふるさと学習に対応するための予習・実践・反省会といった実践的な研修を合わせて目標を達成しています。	B:達成
4	人材	人材育成	職員の職場内外の研修会参加延べ10回以上 (単位:回)	3	3	12	10	10	H29年度までは、職場内の研修会の実施回数で目標設定したが、H30年度は、職場の外の研修への参加を含めて目標設定。	・常設展拡大企画について、職員全員の共通理解を深めるための職場内研修 ・歴史・民俗・美術等専門分野の研鑽 ・その他博物館業務に必要な研修会への参加	「所蔵作品展 人間はどこにいる?」「アートと道具のはざま展」、「昭和のくらし展」等の4つの企画展についてそれぞれ職場内研修を行い、職員の共通理解を深めました。 職場外研修については、「資料取り扱い研修」「歴史資料保存活用研修会」「文化財の保存と活用」などの専門的な研修に機会をとりあて参加するように心がけ、計画通りに実行できました。	B:達成

取り組みについて(目標設定の考え方など)	総合評価 (評価を踏まえた課題分析・方向性など)
<ul style="list-style-type: none"> ・常設展「阿賀北の大地と人々のくらし」や常設展拡大企画の充実により、多くの市民が地域の歴史や文化を知ることができるとともに、北区の魅力を発見できる博物館づくりを目指します。 ・小学校等の「ふるさと学習」の利用拡大を図るなど普及活動に取り組みます。 ・市民ガイドとの協働によるわかりやすい解説に努め、市民が気軽に利用できる博物館づくりを目指します。 ・各種団体・関係機関との連携を図り、様々な機会に利用できる博物館づくりを目指します。 ・当館は、総合博物館として他分野にわたる資料を収集しています。そのため、職員は積極的に研修に参加して、研鑽を積み、それらの適切な保管・調査・研究に努めます。 	<p>2019年度の企画展は、昨年度からの継続で「昭和のくらし展3」を開催し、その後に、恒例の小中学生の書道と科学の2つのコンクール、そして企画展は、美術の「人間はどこにいる?」「アートと道具のはざま展」と、ふるさと学習に対応したシリーズ展「昭和のくらし展4」の3つを開催しました。</p> <p>「博物館まつり」では、昨年度の「北区伝統芸能文化の祭典」の成果により、発表団体を増やして2日間開催したことや、新しい試みとして高校書道部によるパフォーマンスを催行したことなどから、昨年度よりも2.5倍の1,020人の来館者がありました。</p> <p>常設展示では、ふるさと学習で利用する小学校が増え、市民ガイドとの連携で、充実した対応が出来るようになってきました。今後も市民ガイドのスキルアップを目的とした講座の内容にも工夫をして、ガイドの自立化を目指すとともに、多様化する市民利用に対応することを目指します。</p> <p>また、今年度は、福祉施設への広報により施設利用者から多く来館いただきました。来館者層の拡大により、一層努力をしていきたいと思えます。</p> <p>今年度は、「特色ある区づくり事業(郷土芸能支援事業)」の最終年度にあたり、「郷土芸能伝承支援のための郷土芸能記録のデジタル化」「市指定無形民俗文化財郷土芸能記録のデジタル化」を行い、また、事業の成果を「50周年記念誌」紀要にまとめた。そして2020年には、事業の総括として、企画展「写真と映像、そして本物で見る～北区の神楽と獅子舞のこころに注目展」を開催予定です。</p>